

出前授業@筑波大学附属小学校

都会の小学生が 過疎問題を考える

3月1日・8日

目次

- 01 なぜ都会の小学生が
地方の問題を考えるのか
- 02 授業の概要
- 03 児童による課題解決策
- 04 総括

01 なぜ都会の小学生が地方の問題を考えるのか

都会の小学生が地方の問題を考える理由

過疎化の課題は日本社会全体の問題です。

農林水産業は地方に依存しています。
景観や祭りのような文化的価値は、社会全体の財産です。

しかし、都会に住んでいると地方の課題はリアルに感じる事ができません。

そこで、都会の小学生が地方の課題について考えれば、
今までにない価値を生み出せるのではないかな？
本授業は、そうした問題意識のもと企画されました。

授業の概要

【日 時】 3月1日, 8日 1時間目 (8:40-9:20)

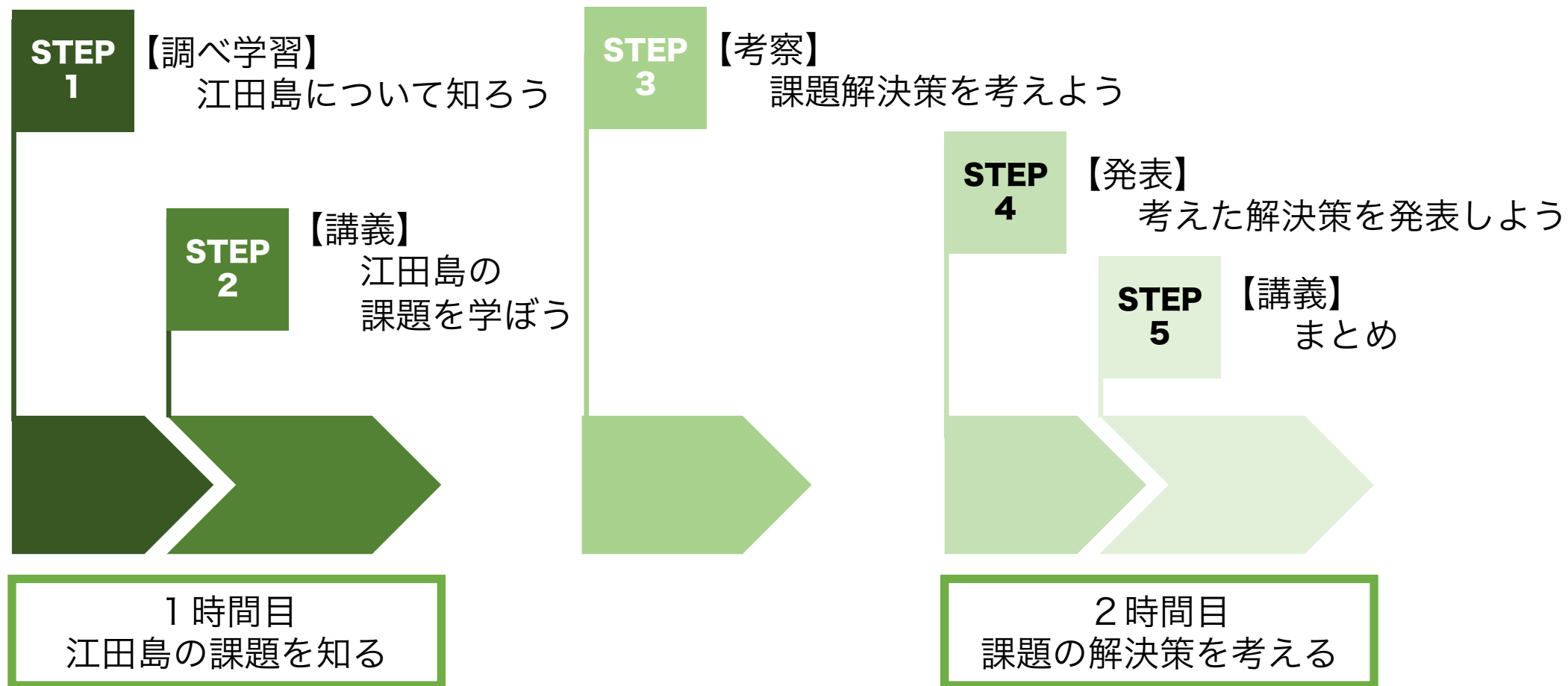
【会 場】 筑波大学附属小学校

【講 師】 NPO法人ど・あっぷ!, 寺本克彦さん, 学生ボランティア

【対象者】 小学5年生32名 (4名×8チームでグループワーク)

【テーマ】 過疎問題

授業構成



STEP
1

パソコンや地図帳を駆使し 競って江田島について知る

「黒板にある島の名前を書きます……。」
黒板には“江田島”の文字。

子供たちはパソコンや地図帳を開き
「はっさくが取れる！」
「オリーブの島！」
と、勢いよく江田島の情報を
収集していました。



**STEP
2**

「地元の声」を聞き 現地のリアルな課題を知る

江田島がどんな島なのかわかったところで
寺本さんが登場。

体験談や写真を交えながら、
リアルな島の困りごとをレクチャーしました。

最後に「『江田島に帰ってきて作戦』を考えてきて」と
問題提起して1時間目は終了。グループワークに移ります。

STEP
2

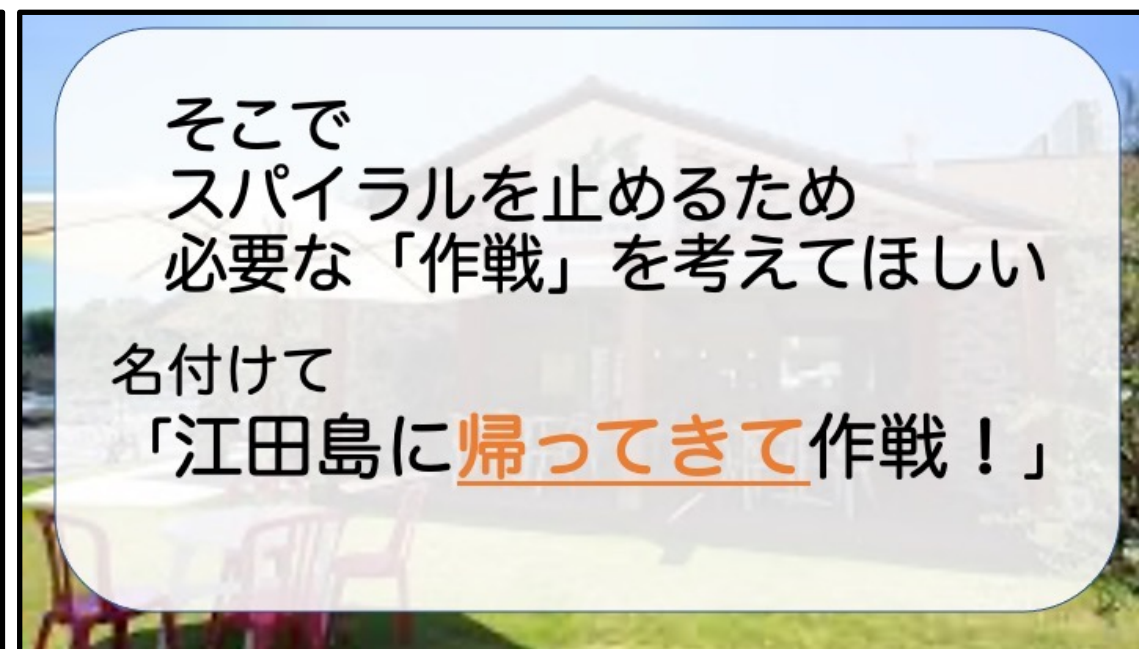
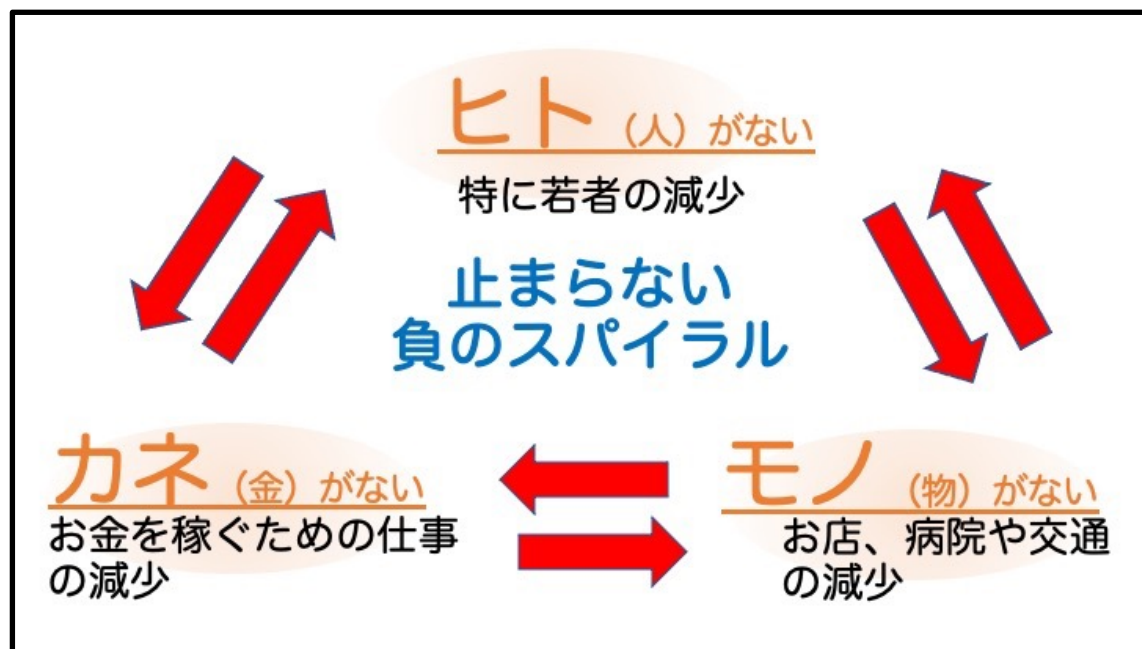
「地元の声」を聞き 現地のリアルな課題を知る



授業スライドの一部。現地の写真を多用し、課題感をクリアに。

STEP
2

「地元の声」を聞き 現地のリアルな課題を知る



授業スライドの一部。負のスパイラルを解消したい！

**STEP
3**

四苦八苦しながらも 解決に向け奮闘

1週間の間、4人1組で解決策を検討。

ワイワイ話し合いながら、
島の課題のこと、予算のことを評価検討し、
班の課題解決策をまとめました。

2時間目の前には大学生ボランティアのメンタリングも受け、
レベルの高い発表を目指しました。

STEP 4 考えた解決策に リアルなフィードバックを

1班3分で解決策を発表。

寺本さんにフィードバックをもらいました。

8班それぞれが、個性的な解決策を
提案しました。



STEP 5 メッセージ 「これは、若い世代の問題だ」

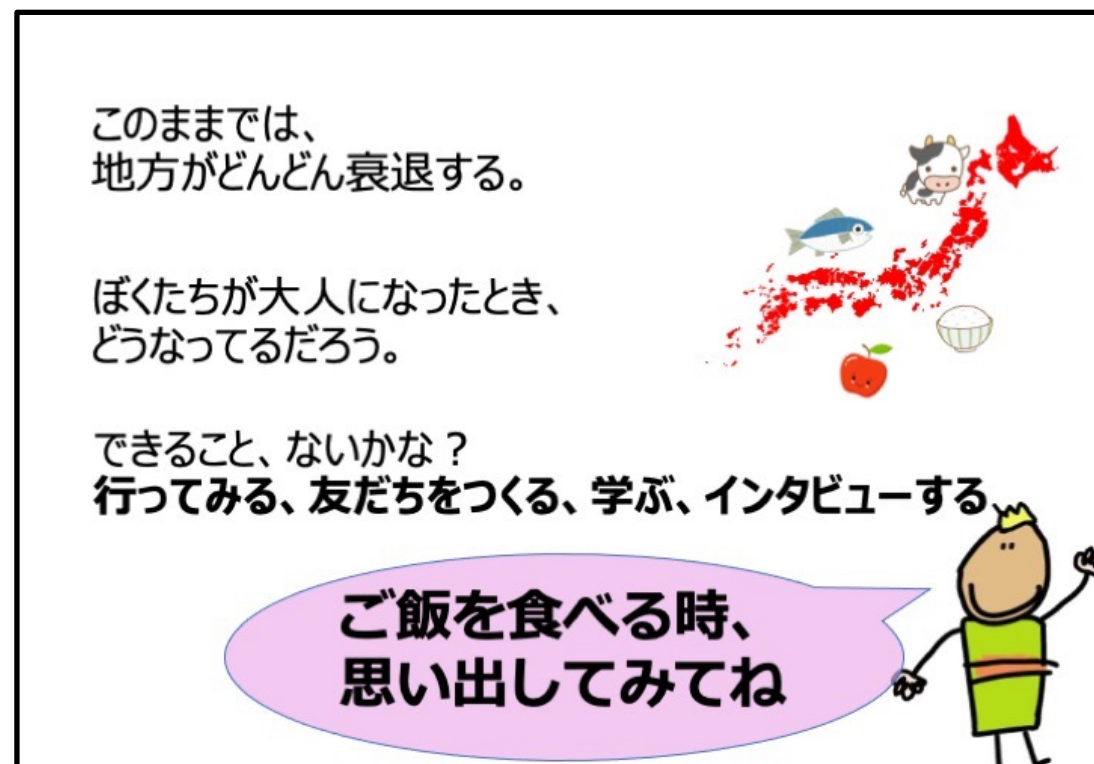
授業のまとめ。

「過疎化をはじめとした社会問題は、若い世代こそが考えなければならない」というメッセージを伝えました。



STEP
5

メッセージ 「これは、若い世代の問題だ」



悪サイクルを 善サイクルに 変える作戦

1班

【施策1】 起業家の移住を促す

【施策2】 オリーブ銀行

【施策3】 酒蔵を作る

【施策4】 ピオーネ水道

【施策5】 ジビエレストラン

江田島の良さを知ってもらう施策で
本州からさらなる移住者や観光客を誘致

自然を活かそう リノベーション 作戦

2班

【施策1】空き家や廃学校を活用

- ▷ 旅館
- ▷ 自然を生かした仕事
- ▷ スポーツ合宿等にも使える小学校の寮
- ▷ 草や生き物を観察館に



【施策2】クルーズツアー

- ▷ 宅配便の輸送も兼ねる

イノシシ 観光作戦

3班

イノシシの飼育体験・うり坊カフェ

- ✓何を食べさせるか計画したり、名前をつけたりできる体験施設。
- ✓カフェには古民家を活用。
- ✓赤ちゃんのイノシシは懐く。



江田島の良さを知ってもらい、
若者に戻ってきてもらう

江田島 ベッドタウン 作戦

4班

03 児童による課題解決策

住みやすさの条件

考えた施策

アクセスの良さ



橋の建設

生活利便性・安全性



住環境の向上

子育て環境の良さ



教育の向上

グルメ & 観光 作戦

5班

03 児童による課題解決策

江田島の魅力

- ・イノシシや牡蠣
- ・柑橘系
- ・綺麗な自然
- ・鹿川水源地



【施策1】

カフェ



【施策2】

キャンプ&コテージ

【施策3】 宝探しイベント

島全体を使って宝探しイベント
江田島の良さを知ってもらう

イノシシ & 問題解決 お金アップ作戦

6班

03 児童による課題解決策

【施策1】イノシシ向け電気柵の導入

- ▷肉は特産品のオリーブと合わせて名物に
- ▷毛は服に
- ▷骨は彫刻に

【施策2】レストランの開業

- ▷SNSやホームページでPR
- ▷子供が楽しめる体験を作る
 - 例) かんきつ狩り
 - 島の見学ツアー
 - イノシシの飼育体験

イノシシ 特産物作戦

7班

特産物センターの開業

▷ うり坊のふれあいスペースを作る



「ご当地カントリーマーム」のような
特産物の創出

絶景ホテル 作戦

8班

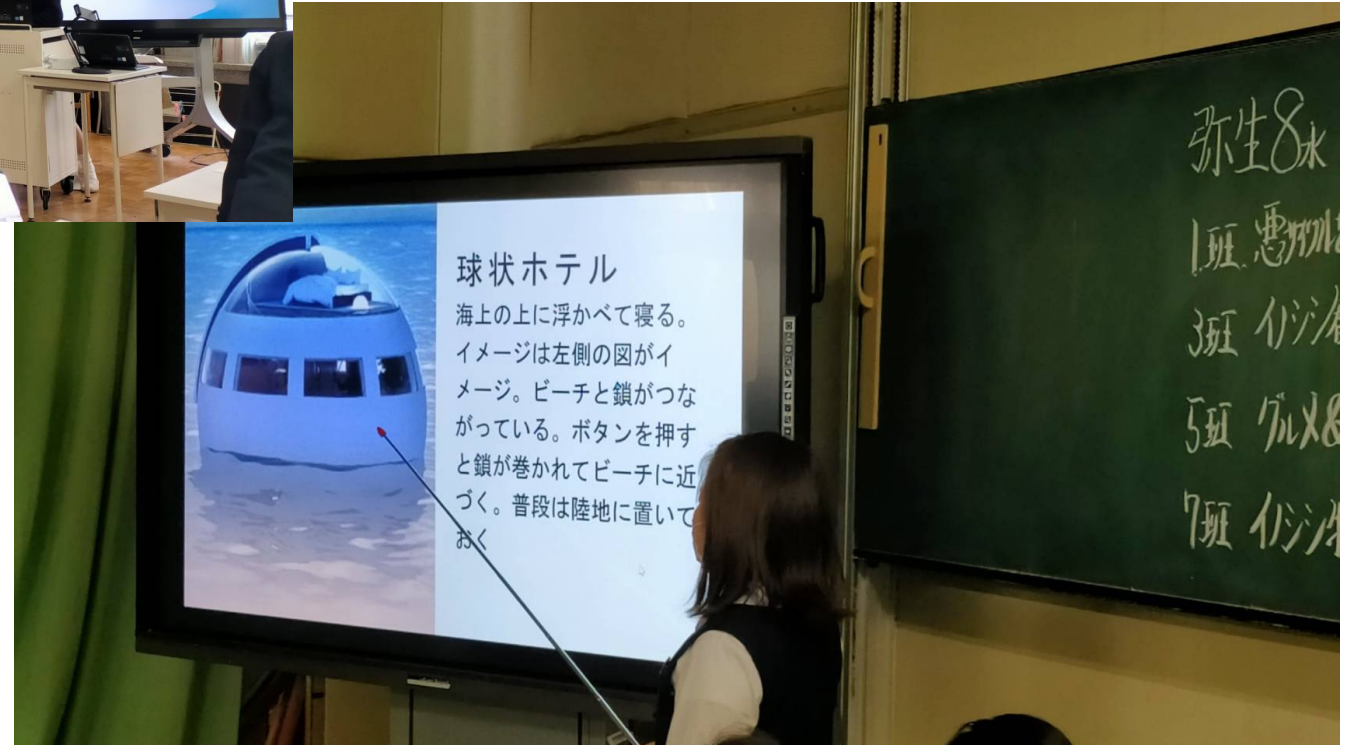
球状ホテルの建設

牡蠣とりやBBQイベント

学校などの合宿の誘致

有名YouTuberによる宣伝

03 児童による課題解決策



【成果】

- ①リアルな社会課題を知る
- ②主体的に課題解決に取り組む



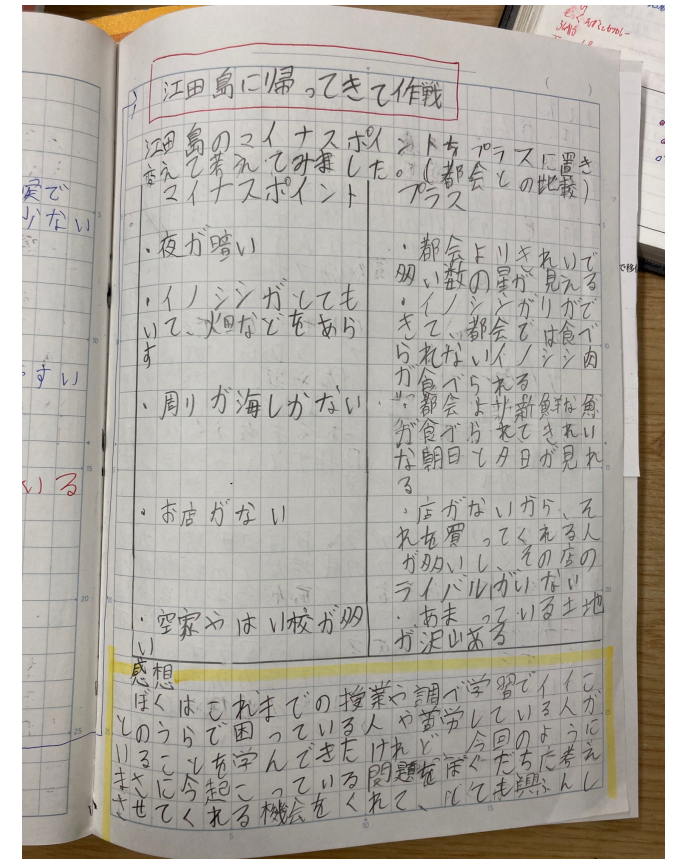
【今後の可能性】

- ①筑附小でのさらなる探求
- ②他小・中への展開

成果1 リアルな社会課題を知る

住民代表として寺本さんが登場したことで、
地方の課題を東京にいながらにして
リアルに感じることができました。

ある児童のノートでは、
「ぼくはこれまでの授業や調べ学習で
いいことのうらで困っている人や苦勞している人
がいることを学んできたけれど、
今回のようにまさに今起こっている問題を
ぼくたちに考えさせてくれる機会をくれて、
とても興ふん」
と記されていました。



成果2 主体的に課題解決に取り組む

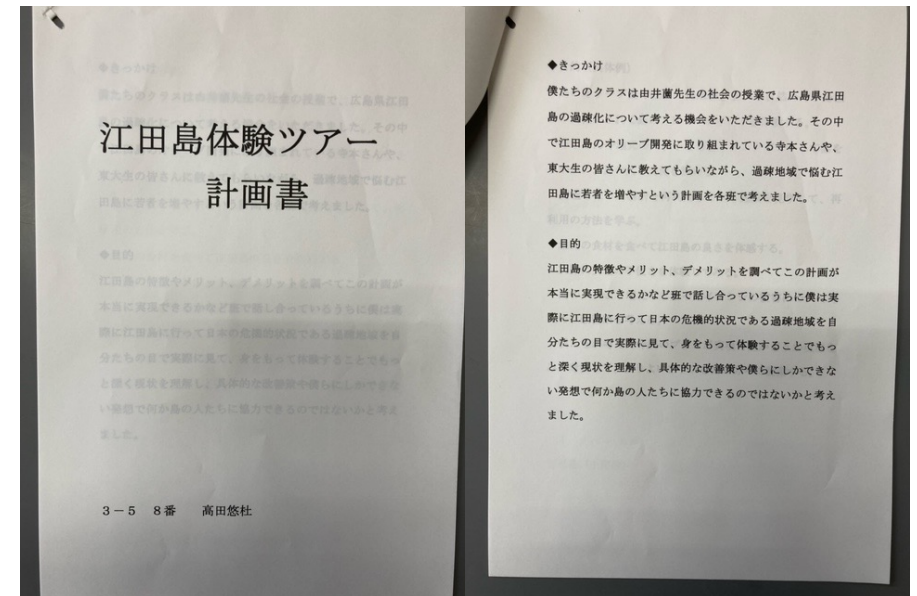
グループワークにより、児童の主体性を引き出しました。

授業後には、

「具体的な改善策や僕らにしか
できない発想で何か島の人たちに
協力できるのではないかと
考えました」

として自ら

「江田島体験ツアー計画書」を先生に
提案する児童もいました。



今後の可能性1 筑附小でのさらなる探求

江田島のことを本気で考えてくれた児童に、
これからも深く課題について考えてほしいと思っています。

「江田島体験ツアー計画書」に応える形で、

- ・実際に江田島を訪問
- ・バーチャルツアー
- ・アイデアの実現可能性に関するさらなる議論

など、多くのポテンシャルがあります。

今後の可能性2 他小・中への展開

同様の企画を他の小学校・中学校でも実施する可能性があります。

多様なアレンジも可能で、

- ・ 地方の児童が都会の課題を考える
- ・ 過疎問題以外の課題について授業する

等々、今回のノウハウを活かした企画を展開できます。

